

誘致実現へ東北一丸

岩手推進協
決議を採択
研究者が意義解説

ILCを 東北へ

誘致実現に向け、
結束を強
める参加者

超大型加速器「国際リニアコライダー（ILC）」の誘致に向け、岩手県ILC推進協議会は26日、盛岡市内で講演会を開き、実現に向けた県民決議を採択した。

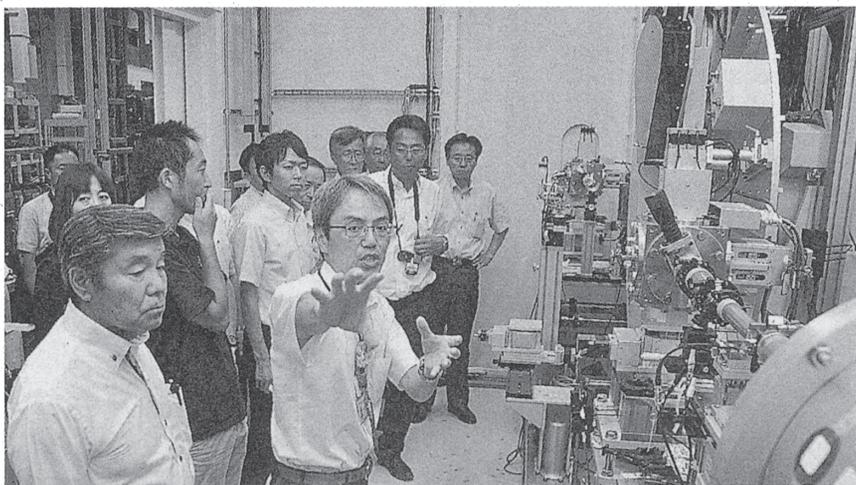
約600人が参加。東大カブリ数物連携宇宙研究機構の村山斉機構長、東大素粒子物理国際研究

が東日本大震災からの復興の原動力や、若い世代の夢と希望になると期待を込めた。

8月、研究者らが岩手県南、宮城県北にまたがる北上山地を国内予定地に選定。日本学術会議が、3年かけて是非を検討するよう提言し、文部科学省の有識者会議が15年度の意見集約に向け、議論している。

兵庫・大型放射光施設「Spring-8」

最先端技術 間近に



県推進協、可能性探る

【兵庫県佐用町で報道部・三浦隆博】国際リニアコライダー（ILC）の誘致に取り組む県ILC推進協議会（会長・谷村邦久県商工会議所連合会長）は25日、兵庫県佐用町の大型放射光施設「Spring-8（スプリングエイト）」を視察した。県内企業などの参加者は、施設を運営する高輝度光科学研究センターの研究者らから、最先端技術などを学んだ。26日は施設周辺の播磨科学公園都市を視察し、ILCや東北放射光施設など、東北での加速器産業集積への可能性を探る。

放射光施設は原子レが参加した。ベルで物質を解析する同センターの熊谷教授。視察には金属加孝専務理事が施設の概要や年間の利用状況などについて説明。東北

兵庫県が設置したビームラインに関する籠島靖センター長（手前右）の説明を熱心に聞き入る視察団。25日、兵庫県佐用町・Spring-8



放射光施設の誘致に向け、熊谷専務は「受け身ではなく、東北として『本当に必要なんだ』という強い思いを示すことが重要だ」と説いた。

同施設内では、兵庫県立大産学連携・研究推進機構放射光ナノテクセンターの籠島靖センター長が同県が設置した、放射光を取り出して利用研究する装置（ビームライン）の概要や企業による活用事例を紹介した。八幡平市大更の金属加工業・ダイヤプレス

岩手工場の西館邦雄工場長は「加速器製造の面では部品加工などで手伝えると感じた。今後、さらに加工技術を高めていきたい」と先を見据えた。

原子や分子の瞬間的な動きを観察できるエックス線自由電子レーザー施設SACLA（さくら）も視察。県商工会議所連合会の広田淳専務は「ILCなどの加速器誘致には地元熱意が大事だと強く感じた。また研究施設は若者の人材育成にもつながるといっては本県にとって大いに参考になる」と話した。26日は放射光施設周辺の先端科学技術センターや県立粒子線医療センターなど播磨科学公園都市を見学する。